



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

退職者連合 院内集会

シニアパワー全開の院内集会

2月13日、退職者連合は参議員会館で政策・制度要求実現2・13院内集会を開催、集会は通常国会に合わせた活動として定着し、今年「経済成長一辺倒の政治から、国民生活の安定を重視する政治へ大きく政策の舵を切ろう」のスローガンを掲げ、社会保障の削減と負担増をすすめる安倍政権にシニアが怒りの声をあげ、地方と産別の仲間350人に加え、国会議員も勢揃いする熱気が集会を盛りあげた。

参議員会館大講堂の会場は支援する国会議員や秘書のみなさんも会場に詰めかけ椅子席だけでは足りずに立つ

千葉、神奈川、埼玉から参加する人がでる程の大盛況の集会となった。JAMからは大山会長はじめ本部、東京、

ら10人が参加した。主催者代表あいさつで退職者連合の人員会

長は冒頭「全国から結集された皆さんに心から感謝します」と謝辞を述べ、地方退職者連

合から各自治体や議員に対する制度要請が600以上報告されるなど運動が全国的に広がっていることを受け「さ



らなる前進に向けて取り組みの強化を図っていく」と強調した。そして国民の政治に対する不満や不安が一向に解決しない原因は安倍首相にある。桜を見る会、大臣の辞任、IR汚職の摘発や野党の質問に真面目に答え

ない国会での例をあげて批判した。国民が求めるのは憲法改正ではなく「社会保障の充実であり政治に対する信頼を取り戻すことだ」として、社会保障制度をめぐり「後期高齢者医療の2割化には絶対反対」と結論つけた。そのうえで来賓の枝野代表（立憲民主）、泉政務調査会長（国民民主）、福島副代表（社会民主）と会場内の国会議員に対して「政治の流れを変えるには野党が大きくまとまって安倍政権に対峙し国民合意の政治にもどしていくことで国民生活第一の政治を望みます」と語りかけた。

令和2年も早3ヶ月となり、時の過ぎる事の速さが、いまさらのように感じます。昨年もこれまでに経験した事の無い様な大きな災害(台風19号による大雨や強風等)に被害を被った福島県ですが、復興復旧の支援を受けて元の生活に戻られると迄に、ひと安心しております。

スポーツ界を見ても大相撲初場所では、幕尻の徳勝龍関が初優勝、20年ぶりの快挙で優勝はインタビュアーも人柄がにじみ出て好感が持てました。地道に取り組んできた相撲道が報われ、両親、恩師への感謝の思いが強く伝わりました。同時に横綱2人が序盤に休場したにもかかわらず盛り上がりを見せた大相撲にも新たな

を脅かす様な政権を断じて許すわけにはゆきません。高齢者が安心して暮らせる社会の実現に向けた政策実現活動を推し進めてゆかなければなりません。福島シニア第11回総会は令和2年1月18日、磐梯熱海温泉、栄楽館にて本部より大野事務局長を

高齢者が安心して暮らせる社会に

情報交換の場から次のステップへ

福島シニア事務局長 齋藤 義美

(宮城・山形・福島の会長、事務局長会議を実施しておりますが、一巡しましたので、今後は情報交換から各シニアクラブのイベントなどを通して親睦を図り、JAMや退職者連合の方針、取り組みを政策実現活動に結び付ける様努めたいと考えております。

主張



を脅かす様な政権を断じて許すわけにはゆきません。高齢者が安心して暮らせる社会の実現に向けた政策実現活動を推し進めてゆかなければなりません。福島シニア第11回総会は令和2年1月18日、磐梯熱海温泉、栄楽館にて本部より大野事務局長を

めたいと考えております。

多くの情報を集約しながらの取り組みを図りたいと思えます。また3年前よりJAM南東北シニアクラブ

通常国会における審議法案の課題報告では連合総研平川主幹研究員は「全世代型社会保障改革検討会には被保険者代表の連合のメンバーがいらないことが大きな問題だ」と批判、年金の被用者保険の適用範囲や地域医療における医師の偏在問題と後期高齢者の負担増、介護における単身高齢世帯問題と介護職員の人材確保などの解説と問題提起がされた。

退職者連合学習会

安心に繋がる医療介護法改正へ



より安心できる社会をつくるためにも通常国会の法案審議に向けて退職者連合は様々な行動で対応していく」と語り、今後の国会審議に合わせた運動に先立つ学習会の開催であること、そのためにもお互いに制度への認識を深め、拡げることの重

1月22日、退職者連合主催の「医療・介護1・22 学習会」が連合本部会議室で開催され各産別と地方退職者連合から150名が参加、JAMシニアからは大山・豊景・大野・末友と地方退連役員の新田・加藤(ともに神奈川)が参加した。冒頭、退職者連合の人見一夫会長はあいさつで「今国会で年金・介護の法案が審議されるが、日本は人口減少とともに高齢化がすすんでおり国民にとっても大きな課題となっている。」高齢者だけではなく、すべての人が

令和元年11月29日 JAM秋田シニアクラブ第17回定期総会(象潟公民館)



秋田 第17回定期総会を開催 中山満明新代表幹事を選出 手をつないで大合唱の懇親会

JAM北東北書記長 後藤 正文

JAM秋田シニアクラブは第17回定期総会を11月29日、にかほ市象潟公民館で19名の参加により開催した。昨年ご逝去された松江代表幹事に代わって、中山副代表幹事の主催者代表挨拶、来賓のJAMシニアクラブ大野事務局長の

挨拶のあと、2019年度活動報告、会計報告、2020年度活動方針案、予算案を満場一致で承認した。2020・21年度役員に

中山満明副代表幹事が挨拶です。



最後は、恒例の全員手をつないでの「星影のワルツ」の大合唱。寒さを吹き飛ばす熱気と連帯感に包まれた一日を終えた。

ついては、新たに代表幹事に中山満明氏を副代表幹事に佐々木光雄氏を選出した。総会終了後、場所を公民館内の和室に移動して盛大な懇親会を開催。会員が調理した「鴨鍋」に舌鼓をうつたあと、会員で郷土の著名な音楽家である佐藤倉太郎さんのリードによるのど自慢大会で大いに盛り上がった。

主催者を代表してあいさつした畑山会長は、組織拡大、とくに女性の会員拡大を強く訴え



また、新春の集いには関係する団体からたくさんの方々が駆けつけて、ご祝辞と連帯のごあいさつをいただきました。ご多忙のなかをご参加いただきありがとうございます。懇親会のスピーチでは、参加者自らの近況報告あり、新年の抱負やなぞかけなど、ユーモラスな話題もあつて会場全体がおおいに盛り上がり、シニア会員相互の懇親がいつそう深まったと感じられた。

要性を訴えた。講師には連合の佐保昌一総合政策推進局長を迎え「安心につながる医療介護の改正に向けて」と題して講演した。佐保局長は「大分県で社会福祉士とケア・マネージャーの資格を持ち、後期高齢者医療や地域包括支援センター勤務を通じた経験を語り「医療と介護は切り離せない」として、三者構成の中医協のあり

かたの問題、診療報酬改定の動き、介護保険制度改正のポイントと「全世代型社会保障検討会議の中間報告」について解説するとともに、連合の考え方と対応について解説した。そのなかで連合は社会保障制度の各審議会

制度への適用拡大、基礎年金の底上げ、介護離職を出さない社会にするための法改正の実現に向けた取り組みを強化していくことを強調していた。

質疑では神奈川退職者連合の新田さん(JAM神奈川シニア)から「①高齢者に対する薬のだし過ぎ問題について、薬手帳を提示しない患者には薬を出さないシステムにすべきでは。②団塊世代が2025年には75歳を超え要介護者が多数で

と予測されているが今の施設数では間に合わなくなる。地域包括システムを生かすべきだ」との意見がだされ、佐保局長から「ご意見を踏まえ、しっかりと取り組んでいきたい」との答弁がされた。

葉 ユーモラスな話題で 盛り上がった新春のつどい

蝦名 秀信 通信員

千葉シニアクラブは1月11日(土)に「2020年度・新春の集い」を千葉市内(中華料理店・永興)にて実施。当日は晴れて、やや寒く感じたが、参加者は来賓を含めて総勢39名で開催した。